

平成二十六年 度

東京家政大学附属女子中学校

入 学 試 験 問 題 第 一 回 〔 国 語 〕

〔 注 意 事 項 〕

- ・ 問題 は、一 ペー ジ か ら 八 ペー ジ ま で あ り ま す。
- ・ 解 答 は す べ て 解 答 用 紙 の 定 め ら れ た 欄 に 記 入 す る こ と。

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

トラックの運転手をしていた父は、二か月ほど前に病気で亡くなりました。「ボク」は、母親の故郷の町で、母親といっしょに暮らすことになりました。「ボク」は父の仕事仲間だったアサイさんとヒガシさんに、トラックで母親の実家まで送ってもらっているところです。

坂の注イ 勾配が急になった。峠が近い。

「腹が空いたろう、ボク」ヒガシさんが振り向いて笑う。「美味しいもん、ぎょうさん食わせたるけん、楽しみにしときんさい」

少年はなにも応えない。こころほそさの向かう先が微妙に変わった。新しい町での暮らし——新しい学校で友だちができるだろうか、いじめられたいだろうか、引越したら仕事を始めるといってお母さんは疲れて病気になるだろうか、無口なおじいちゃんと仲良く暮らしていけるだろうか、行儀にうるさいおばあちゃんに嫌われないようにがんばらないと……「だいいじようぶじゃ、困ったことがあったら、お父さんになんでも言えや」と肩を抱いてくれるお父さんは、もう、いない……。

トラックが急なカーブを曲がると、目の前が不意に明るくなった。

ドライブインだった。峠のてっぺんに、雑木林に囲まれて、まるで秘密基地のような終夜営業のドライブインがあった。

① 広い駐車場はトラックで満杯だった。どのトラックも電飾をまばゆく灯し、一斉にクラクションを鳴らして少年の乗ったトラックを迎えた。

「みんな集まってくれたんじゃ」

アサイさんが初めて少年を振り向いて笑った。

② 「みんな、お父ちゃんの連れなんじゃ」

ヒガシさんも笑った。まわりのトラックの明かりに照らされた顔は、二人ともあんがい優しくそうだった。

トラックはスピードを落として、ゆっくりと駐車場を進む。なんだか『ジャングル大帝』のレオになったような気分で、少年も初めて、頬をゆるめた。

二人に連れられて食堂に入った。ヒガシさんがセルフサービスの水を持ってきてくれて、アサイさんは「③ 味噌ラーメンと餃子にせえや、ボク」と言った。どちらも父の好物で、このドライブインに寄るたびに食べていたのだという。

やがて、外から何人もの男のひとが入ってきた。父と顔なじみのトラック仲間なのだとヒガシさんが教えてくれた。自己紹介はしない。名前もわからない。ただ、テーブルを取り囲んだ顔は、みんな笑っていた。

注イ 勾配が急になった。

「ええ食いつぶりじゃのう」^{（おやじ）}「親父によう似とるわい」「トン汁も食うか？ 親父はトン汁も好きじゃったんど」「ぎょうさん食うて早う大きゅうなつて、お母ちゃんに楽しませちゃれ」……。

少年は黙ってラーメンを食べる。餃子を食べる。ラーメンも餃子も口の中を火傷しそうなほど熱かった。味はよくわからない。こんなに唐辛子の効いた味噌ラーメンは初めてだったし、ふだん家で餃子を食べるときには、母はラー油を入れてくれない。

どんぶりに顔をつつこんでラーメンを啜り、むせそうになりながら餃子を食べっていると、鼻の奥が熱くなってきた。味はあいかわらずわからない。それでも、これはおいしいんだ、いままで食べたラーメンや餃子の中でいっとうおいしいんだ、と決めた。

ドライブインを出るときにも、トラック仲間が外に出て見送ってくれた。ヘッドライトや電飾を浴びて駐車場を進んでいると、左右から「しつかりがんばれや！」「困ったことがあったらなんでも相談せえよ！」「あんたのお父ちゃんには世話になったんじゃけん！」と声がかかる。^{（４）}照れくさくなって夜空を見上げると、父がゴツイ顔をくしゃくしゃにして笑っていた。

トラックに乗り込んだ。まわりのトラックの明かりは仮眠用のスペースも、ぼうつと照らしていた。あ、そうだ、と少年はランドセルの蓋を開けた。寄せ書き帳のリボンをほどき、ページを急いでめくった。

〈元気でね〉

成瀬さんは、そう書いてくれていた。^{（５）}期待していたような言葉ではなかったが、でもいいや、と笑ってノートを閉じた。

トラックが走り出す。今度は下り坂。道路案内板が見えた。右に曲がれば父が定期的に荷物を運んでいたコンビニのある街、左に曲がれば古い城下町——母のふるさと。

左折して、カーブをいくつか曲がると、急に見晴らしがよくなった。遠くに町の明かりが見える。空の下の方が白んでいた。

「あと三十分ほど着くけえの」とアサイさんが言った。

「お母ちゃんが迎えに来てくれとるど」とヒガシさんが笑う。

少年は黙ってうなずき、^{（注ハ）}すねぼんさんをべろりとなめた。味噌ラーメンと餃子の辛さに舌が痺れているせいなのか、すねぼんさんの味は、今度はほんのりと甘かった。

重松清「小学五年生」より

【一部に表記の変更があります。】

問一 本文では、一日のうちのいつごろの場面がえがかれていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 朝から昼にかけて。

イ 昼から夕方にかけて。

ウ 夕方から夜にかけて。

エ 夜から明け方にかけて。

注ロ 成瀬さん「ボク」のクラスメイトの女子。

— 2 —

問二 — 線①「広い駐車場は少年の乗ったトラックを迎えた」とありますが、このときの少年の気持ちかわかる一文をぬき出し、最初の四字で答えなさい。

問三 — 線②「お父ちゃんの連れ」を言いかえた言葉を、本文中から十三字でぬき出しなさい。

問四 — 線③「味噌ラーメンと餃子にせえや、ボク」とありますが、アサイさんがこれらを少年にすすめてくれたのはどのような気持ちからですか。解答欄の言い方にあうように答えなさい。

問五 — 線④「照れくさくなって夜空を見上げると、父がゴツイ顔をくしゃくしゃにして笑っていた」とありますが、このときの少年の気持ちとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア かつて父が仲間の人たちに優しくした分、今自分が優しくしてもらっていると思うと、生まれて初めて父に感謝したくなった。

イ かつての父の仲間の人たちが自分を温かくはげましてくれて、とてもうれしいが、父もきつと喜んでくれているだろう。

ウ かつて父の仲間だった人たちが実はこんなに優しくしたのだということを、それを知らずになくなった父に知らせたい。

エ かつての父の仲間の人たちは、自分に優しくすることで、本当は父を失った悲しみをまぎらわせているのだろう。

問六 — 線⑤「期待していたような言葉ではなかったが、でもいいや、と笑ってノートを閉じた」とありますが、なぜ少年は期待していた言葉ではなかったのに「いいや」と思えたのですか。次の文の□にあうように、三十字以内で答えなさい。

父の死や引越して落ち込んでいたが、□から。

問七 本文中でえがかれている少年についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア はじめはアサイさんやヒガシさんになじめず複雑な気持ちだったが、目指す家が近づくにつれて、少しずつ緊張がとけている。

イ はじめはこれから向かう土地がどういう所かと不安な気持ちだったが、父のなじみの人たちの様子を見て、楽しい所だろうと安心していている。

ウ はじめは将来のことを考えて心配でたまらなかったが、父のなじみの人たちの明るく生きる姿を見て、大丈夫だと割り切っている。

エ はじめはこれからの新しい生活についてあれこれ思い悩んでいたが、周囲の人たちとふれ合う中で、不安が取りのぞかれている。

— 3 —

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「雑草はたくましい」と評される。そして人びとは、雑草の強さにあこがれる。

ところが、植物学の分野では、雑草は強いとはされていない。むしろ雑草は、「弱い植物である」とされているのである。

自然界は、弱肉強食である。強いものが生き残り、弱いものは滅び去っていく。

植物のなかにも生育が旺盛で、ほかの植物を圧倒する強いものがある。

お山の一本杉のようなものがその典型だ。ほかの植物を駆逐して、最後に生き残ったのが、一本杉なのである。
注イ 駆逐し、追いはらうこと。

あるいは、深い森の中に生い茂る巨木たちは、生存競争の勝者たちだ。

タンポポやスミレのような雑草は、クラク深い森の中に暮らすことはできない。「雑草」と呼ばれる植物は、ほかの植物との生存競争に対して「①」なのである。

それでは、世の中がすべて、強い植物ばかりになってしまいかといえ、かならずしもそうではないのが自然界のおもしろいところだ。

じつは、「強い植物」が力を発揮できない場所があるのである。

それは、「②」である。

強い植物は、安定した条件で力を発揮する。ところが、なにが起こるかわからないという不安定な状況では、力を発揮することができないのである。

サッカーの試合を考えてみよう。

芝は天然芝の最高のコンディション。お天気は快晴で、風もない。誰だって、そんな恵まれた条件で試合をしてみたいと願うだろう。

この恵まれた条件のなかで、③プロのサッカーチームと、④小学生チームが対戦したとしたらどうだろう。結果は見るまでもない。プロのサッカーチームが勝つに決まっているだろう。

ところが最悪のコンディションを考えてみよう。天気は大雨。風も吹き荒れている。グラウンドは、ドロドロにぬかるんでいて、水たまりさえたくさんある。

強く⑤フる雨でボールがどこにあるのかもわからないし、味方の位置も見えない。風に飛ばされてボールもどっちへ転がるかわからない。

そんな恵まない条件でサッカーをやるのは、誰だってイヤである。

しかし、そんな不安定な条件で試合をしたとしたら、どうだろう。

もしかすると、⑥番狂わせの可能性が出てくるかもしれない。

そして、小学生チームが、練習の条件に恵まれず、いつも泥んこの河川敷のグラウンドで、強い風が吹きすさぶなかで練習を積み重ねていたら、どうだろう。

弱いはずの小学生チームが、強いはずのプロのチームに勝つ可能性は高まるだろう。

注ロ 番狂わせ、勝ち負けが悪い結果になること。

⑤ 雑草の立つ瀬もまさに、そこなのである。

誰だって恵まれた環境で勝負したい。しかし、安定した環境で勝負を挑んでも、弱い植物が強い植物に勝つことはできないのだ。

弱い植物である雑草は、強い植物が力を発揮できない予測不能な環境に、活路を見出した。

予測不能な環境で成功するために必要なものは、強い植物に勝つ「力」ではない。予測不能な環境を克服する「知恵」なのである。

逆境は敵ではない。味方である。

これが雑草の生き方の基本的な哲学である。

逆境は誰にとってもいやなものである。しかし、逆境があるおかげで、弱い植物である雑草に成功のチャンスが訪れる。

逆境さえ、乗り切ることができれば、逆境は自分たちの成功を約束してくれる条件となるのである。

恐竜がいた時代は、地球の歴史のなかでもっとも安定した環境であった。

気候は温暖で、地殻変動もない。そんな時代には、力がすべてだった。

恐竜たちは、⑦こぞって大きさを競った。植物たちも大型化し、ツクシの仲間が何十メートルもの高さまで、そびえ立っていたのである。

雑草と呼ばれる植物の⑧ソセンが現れたのは、氷河期の終わりごろであるといわれている。氷河の跡にできた不毛の土地が、彼らの最初の生息の場だったのである。

そして、氷河期が終わり、環境が大きく変化する不安定な時代になると、洪水が頻繁に起こる河原や土砂崩れ後の山の斜面など、予測不能で、大型の植物が生えない場所が出現した。そこが雑草の棲みかとなっていたのである。

⑥ ところが、人間が現れると、雑草の生活は一変する。

木が切られ、村ができると、人びとに踏みつけられたところは大きな植物は生えることができない。森が拓かれ農耕が始まると、土は耕され、草取りもおこなわれる。こうして人間が環境を改変し、次々と予測不能な環境が作られたのである。

新石器時代の遺跡からは、すでに雑草の種子が発掘されている。人類が人間としての歴史を刻み始めたとき、そこには、もう道ばたの雑草があったのである。

そして、人類が生息環境を広げていくにつれて、雑草たちもその分布を広げていった。いまや雑草は私たちの身の回りの、ありとあらゆるところを棲みかとしている。

好むと好まざるとにかかわらず、雑草は私たち人類とともに、繁栄を遂げてきたのである。

雑草は予測不能な乱世を好む植物である。いまや、身の回りは「予測不能な環境」であふれている。まさに雑草たちの時代がやってきたのである。

注ハ こぞって、皆そろって。みんなそろって。

人類が作りだした都市という環境は、特殊な環境である。とくしや

しかし、過酷かこくな環境であるということは、それだけ敵が少ないということである。ライバルとなる植物も少ないし、生存おひやを脅かすような害虫も少ない。

もし、都会という厳しい環境に適応することさえできれば、そこはライバルも天敵もない楽園となるのである。

ナンバー1の実力を持つ強い植物にとって、都市は住むべき環境ではない。しかし、弱肉強食の生存競争のなかで、勝ち抜くことのできない弱い植物たちにとって、都市は、生存の可能性がある魅力的な場所である。

逆境に挑む「雑草」と呼ばれる植物にとって、都市は、生き残り戦略が試される場所である。

ライバルとなる植物はいない。ただ求められるのは、都市という厳しい環境を乗り越える知恵なのである。

稲垣栄洋「都会の雑草、発見と楽しみ方」より

【一部に表記の変更があります。^{へんこう}】

問一

① に入ることはとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 強い植物
イ 弱い植物
ウ たくましい植物

工 自由な植物 才 ひかえめな植物

問二 ② に入ることとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最高の環境
イ 最低の環境
ウ 予測不能な環境

工 孤独な環境
才 敵の多い環境

問三——線③「プロのサッカーチーム」、——線④「小学生チーム」とありますが、それぞれ何をた

とえていますか。③は四字で、④は九字でぬき出しなさい。

問四——線⑤「雑草の立つ瀬もまさに、そこなのである」とは、雑草についてのどういうことを表し

ていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雑草は一本では生きられなくても、仲間と協力すれば生きのびられること。

イ 悪い環境におかれることで、かえって雑草が生きのびる可能性が高まること。

人間にとっての最悪な環境が、雑草にとっては最高の環境になりうること。

工 どんなに厳しい自然環境であっても、雑草だけは受け入れてもらえること。

問五——線⑥「ところが、人間が現れると、雑草の生活は一変する」とありますが、それはなぜです

か。解答欄の言い方にあうように、二十五字でぬき出しなさい。【句読点を含むくく】

問六——線⑦「都市は、生存の可能性がある魅力的な場所である」とありますが、雑草にとってなぜ都市が魅力的な場所なのか。解答欄の言い方にあうように、三十字以内で答えなさい。

問七 本文を通じて筆者が伝えようとしていることに最も近いものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雑草は強い植物だと人々は思っているが、実は自然界においては弱く、厳しい環境でなんとか生きのびている植物である。

イ 雑草は基本的に強い植物だが、環境に非常^{ひじょう}に左右されるという欠点があり、気候や場所によつてはとても弱くなつてしまう。

ウ 雑草は人間にとっては弱いが、自然界では強い植物で、植物の生育に適した環境でもそうでない環境でも生きのびられる。

工 雑草という種類の植物はもともとなく、植物の生育に本来適さない厳しい環境で生きのびている草をまとめて雑草と呼んでいる。

問八 りりり線①・㉔の漢字はひらがなに、㉕・㉖・㉗・㉘のカタカナは漢字に直しなさい。

① a 典型

② b クラ (く)

③ c 発揮

④ d フ (る) ⑤ e ソセン

— 6 —

— 7 —

— 6 —

次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の1～5の漢字の部首名として適切なものを、あとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 究 2 熱 3 歌
4 聞 5 複

ア しめすへん イ うかんむり ウ れんが(れつか)
エ るまた オ したごころ カ あなかんむり
キ あくび ク もんがまえ ケ ころもへん
コ みみ

問二 次の1～5の、体の一部を表す言葉を使った慣用句の意味として最も適切なものを、あとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

1 足が出る イ うそをついて人をだます。
2 うしろ髪^{がみ}をひかれる エ 何の興味も持てない。
3 顔が売れる カ とてもおどろく。
4 口がすべる ク それまでにしていたことが気にかかる。
5 鼻を明かす コ 文句を言いたい気持ちをこらえる。
ア 有名になる。
ウ 調子に乗って余計なことまで言う。
オ 人を出しぬいてあつと言わせる。
キ 人を喜ばせることを言う。
ケ 予算をこえてお金がかかる。

受験番号	
氏 名	
評	点

1[illegible]2[illegible]3

問 二	問 一
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
小計 3	